

令和元年度指定管理者制度運用委員会における  
沖縄県国営沖縄記念公園内施設（首里城地区内施設）の  
平成 30 年度指定管理者モニタリングの検証結果

## 1. 日時

令和元年 7 月 24 日（水）13:30～15:30

## 2. 場所

ホテルチュラ琉球 7 階会議室

## 3. 出席者

委員：7 名中 5 名出席

- （委員長）田名 真之 沖縄県立博物館・美術館 館長
- （委員）波照間 永吉 沖縄県立芸術大学 名誉教授【欠席】
- （委員）小山 岳史 小山岳史公認会計士事務所
- （委員）平野 典男 琉球大学国際地域創造学部 教授
- （委員）水上 修 沖縄県立芸術大学 教授
- （委員）福島 駿介 琉球大学名誉教授
- （委員）東 良和 （一社）日本旅行業協会 理事【欠席】

説明者：沖縄県都市公園課、指定管理者（（一財）沖縄美ら島財団）

事務局：（株）国建・（一社）日本公園緑地協会共同企業体（受託者）

## 4. 議事

平成 30 年度指定管理者モニタリング実施結果の検証について

## 5. 検証内容

- ①指定管理者及び県が実施するモニタリングは適正に行われているか。
- ②指定管理者に対する権の指導・助言は適切に行われているか。
- ③アンケート、苦情等に対する対応は適切か。

## 6. 議事の概要

- ・沖縄県国営沖縄記念公園内施設（首里城地区内施設）のモニタリングについて大きな指摘はなかった。
- ・平成 31 年 2 月からの県管理に伴い、その効果を発揮できるような、よりよい管理運営に向けた評価指標などの工夫を行うことが求められた。

## 7. 審議事項（主な質疑応答）

○：委員

■：都市公園課、指定管理者又は事務局

○：多言語対応の5言語とはどこの国のことか。

■：日本語、英語、中国語（簡体・繁体）、韓国語に対応しており、合計5言語となっている。

○：現地確認の人数と、それに要した時間をどの程度か。

■：県都市公園課4名及び事務局5名にて、机上検査を実施した後、現地確認等を行い、最終報告としてとりまとめている。

■：財団本部で1日、首里城公園管理センターで2日、現地確認を実施した。

○：入場者のうち、国内及び外国人入場者数の割合はどうなっているか。外国人については国ごとの内訳まで把握できるのか。国別内訳も統計を取った方が、今後の増減分析にも活用できるのではないかと思う。難しいとは思いますが意見として提案したい。

■：国営沖縄記念公園事務所が調査した最新の実績によると、県外在住が61.7%、県内在住が7.5%、外国人30.4%となっている。

○：建物や門が首里城の顔だと思う。漆は日光に弱いため沖縄では県外と比べても漆の劣化は早い状況にある。建物の漆塗り替えについては、建物の経年劣化により修繕を実施しているはずだが、沖縄県においても、今後、建物の補修関連に対する予算をとって対応してほしい。

■：通常の維持修繕とは別に施設の長寿命化を図るため、指定管理者の施設管理経費で予防保全修繕に対する予算措置を行い、今後、定期的・計画的に実施していく予定である。

○：公園関連事業については、事業未実施分があるため、事業計画に対して支出が少なくなっているが、次年度に事業を実施する等の検討は行っているのか。

■：公園関連事業は事業実施予定だったが、関係機関との調整により実施できなかったものであり、次年度に実施予定事業として考えている。

○：高齢者の無料化については、今後どう対応するか。

■：今回は県民向けの誘客を図るため、県内在住の70才以上の方を対象に無料化を実施した。県外在住者は有料である。

○：小中学生についての対応はどうなっているか。

■：小中学生は学習利用が目的であれば、無料で対応している。県内在住者は入場者全体の7%程度であり、またリピーターが少ない傾向にある。今後、県内在住者の利用促進を図るため、高齢者を無料化することで、同伴者を含めた誘客を試験的に実施している。

○：指定管理者は様々な事業を行っているようだが、今回の利益が、地域貢献や環境保全に関わる事業に使用した分については、IV総合評価の「重点取組事項」にて評価することが必要だと考えている。次年度に向けて検討してほしい。モニタリングの必要性はないが、報告を受けて評価可能な部分は記載することで、次期の指定管理者選定の際にも参考になると考えられる。

■：検討したい。

○：入場者が多い施設であるため、虫などが施設内に侵入している可能性が高い。正殿等は重要な物が多いため、月1回程度はトラップをしかけるなどの対処は必要だと思う。首里城では燻蒸は実施しないのか。

■：収蔵品、収蔵庫は燻蒸を年1回実施している。

以上